2025年12月期（第120期）
第2四半期　業績概要

2025年8月12日
日東精工株式会社
（証券コード 東証プライム:5957）

2025年3月
健康経営銘柄
3回目の認定

2022年3月
なでしこ銘柄
初選定

2025年3月
第15回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞「地方創生大臣賞」受賞

連結業績ハイライト

単位：百万円／％	FY2024 2Q		FY2025 2Q		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	22,394	100.0	**23,859**	100.0	1,464	6.5
売上総利益	5,358	23.9	5,783	24.2	424	7.9
販売管理費	3,864	17.3	4,277	17.9	413	10.7
営業利益	1,494	6.7	**1,505**	6.3	11	0.8
経常利益	1,610	7.2	**1,432**	6.0	△ 177	△ 11.0
税金等調整前当期純利益	1,597	7.1	1,570	6.6	△ 26	△ 1.7
親会社株主に帰属する当期純利益	1,007	4.5	**873**	3.7	△ 133	△ 13.3
一株当たり当期純利益（円）	27.56		24.09			

決算のポイント

売上高
+6.5%

- ファスナー事業は2Qより加わったインド子会社が業績に貢献。ゲーム機向けに精密ねじが大幅に増加。
- 産機事業は世界全体のEV販売減速、米国関税の影響で設備投資が伸び悩み前年同期比で減収。
- 制御事業は化学・薬品向け分析装置、国内での電池向け分析・計測機器が堅調。

営業利益
+0.8%

- 前年からファスナー事業で価格転嫁の効果が表れ利益率が改善し、増益。
- 1QにインドM&A関連費を販売管理費に計上した影響で営業利益率は一時的に低下。

経常利益
△11.0%

- 当期は円高が進行し為替差損が発生。特にインドネシア・ルピア安が影響し、前年同期比で減益。

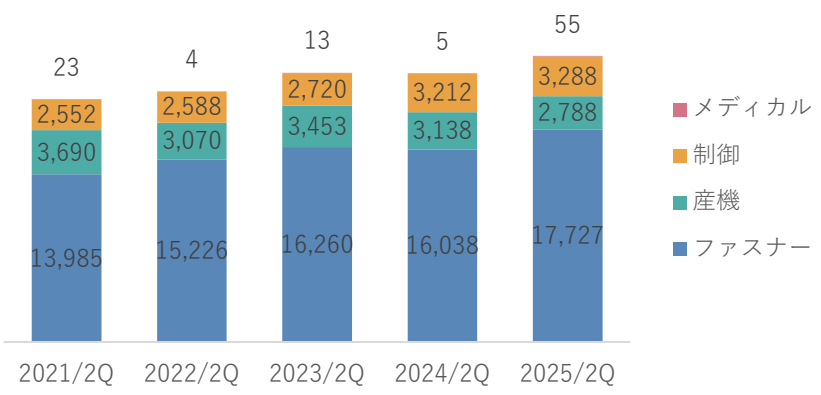
海外

- マレーシアでOA機器向け・家電向けのファスナー製品が好調。
- 売上は総じて増加しているものの、前年より円高に振れ円換算では前年同期比で減少。

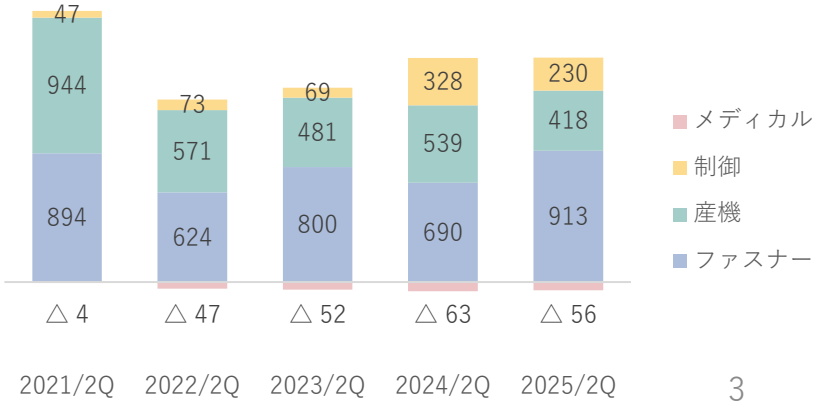
セグメント別売上高・営業利益（連結）

単位：百万円／％		FY2024 2Q	FY2025 2Q	前期比 増減額	前期比 増減率
ファスナー事業	売上高	16,038	17,727	1,688	10.5
	営業利益	690	913	223	32.3
	利益率	4.3	5.2		
産機事業	売上高	3,138	2,788	△ 349	△ 11.2
	営業利益	539	418	△ 120	△ 22.4
	利益率	17.2	15.0		
制御事業	売上高	3,212	3,288	76	2.4
	営業利益	328	230	△ 98	△ 29.9
	利益率	10.2	7.0		
メディカル事業	売上高	5	55	49	847.6
	営業利益	△ 63	△ 56	7	ー
	利益率	△ 1,092.4	△ 102.3		

セグメント別売上高　（百万円）

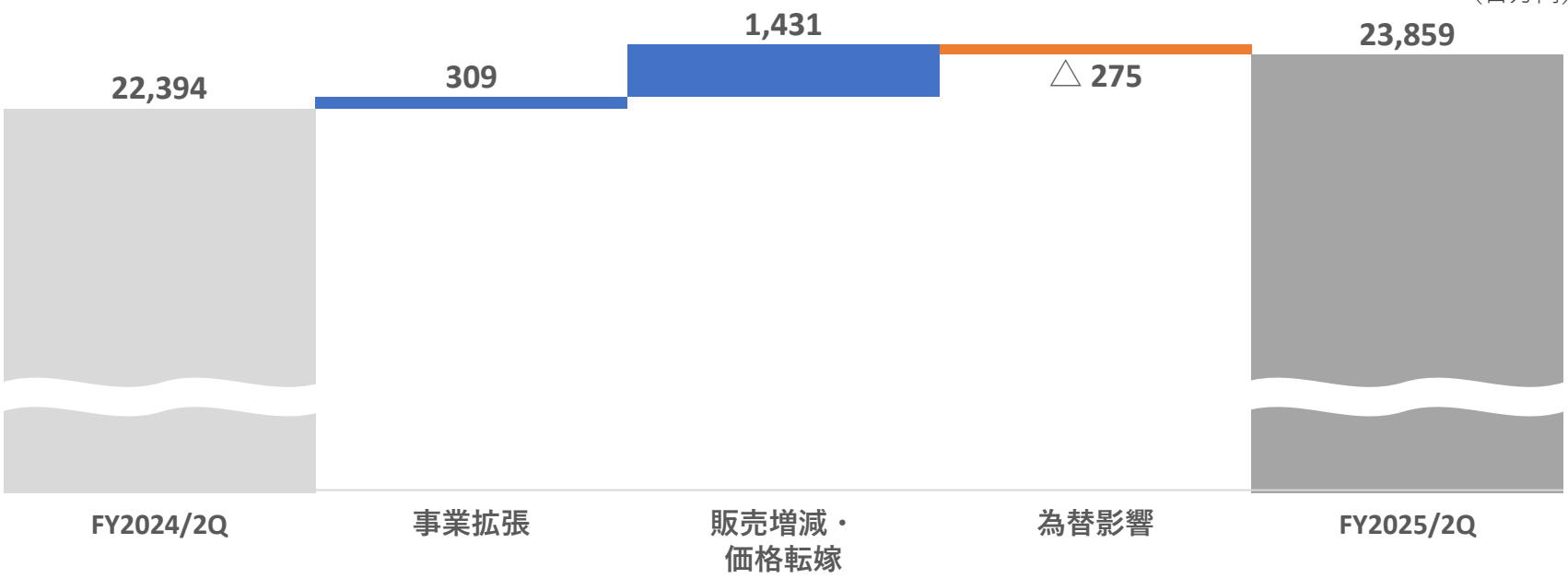


セグメント別営業利益　（百万円）



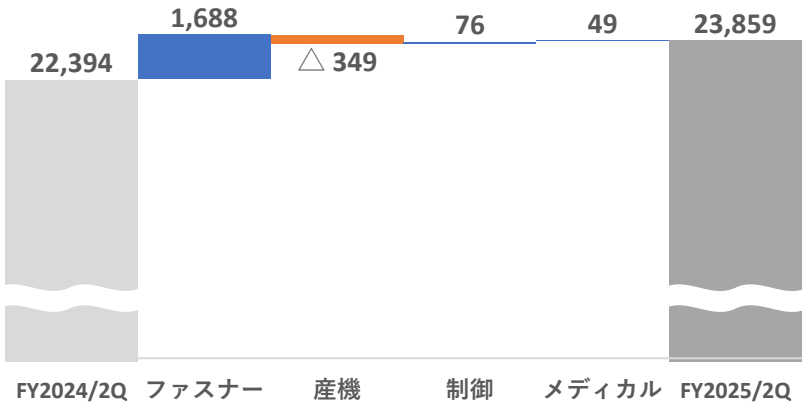
売上高　増減要因

（百万円）



セグメント別売上高増減

（百万円）



事業拡張

2Qより加わったインド子会社が業績に貢献。

販売増減

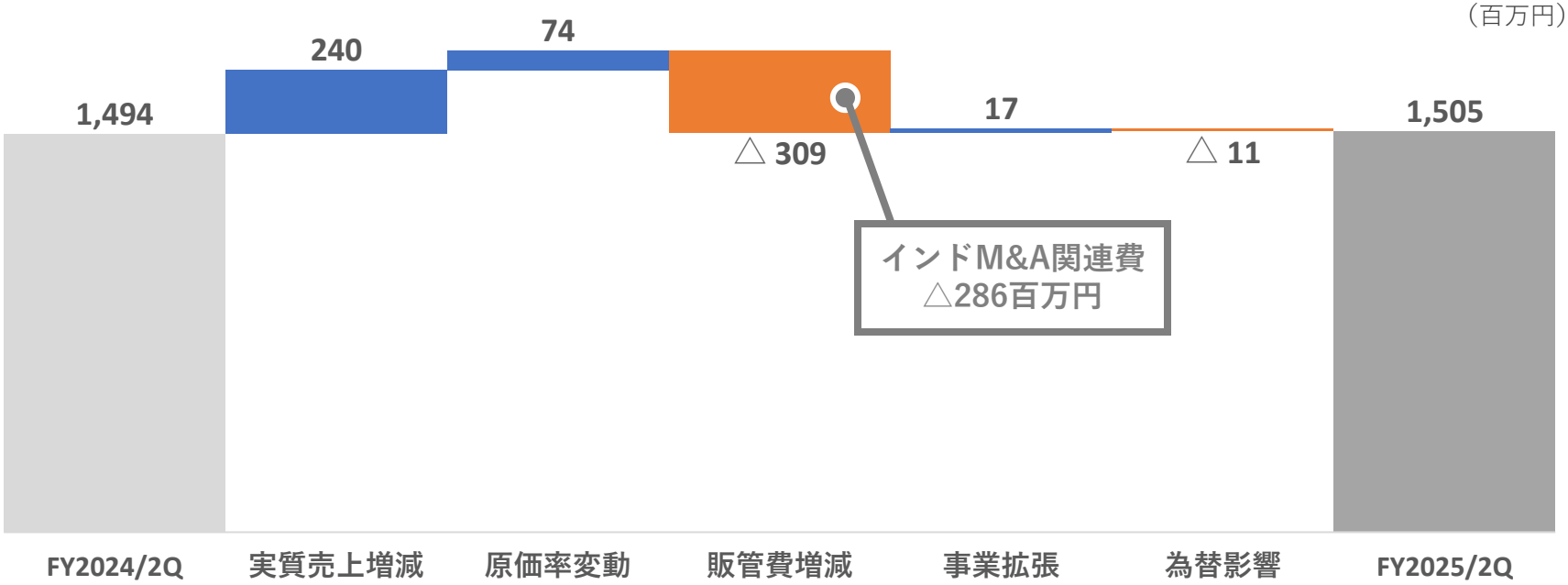
ゲーム機向けに精密ねじの売上が大幅に増加。データセンター向けなど生成AI関連も好調。

価格転嫁

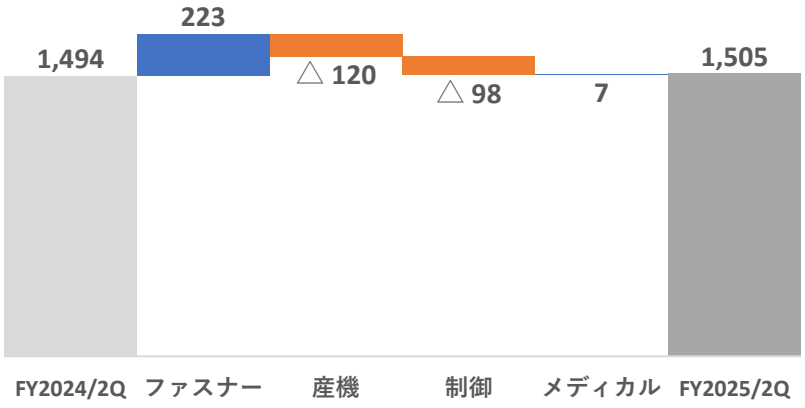
ねじ製品は前年末から、ねじ締め機関連は前年2Qから価格転嫁が進んだ。その他は今後も引き続き交渉予定。

営業利益　増減要因

（百万円）



セグメント別営業利益増減　（百万円）



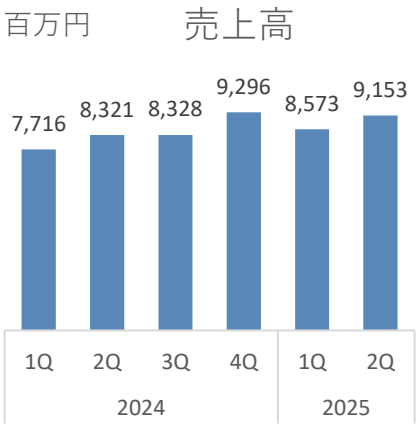
原価率変動要因

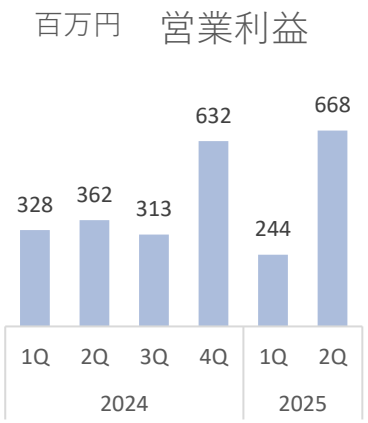
ねじ製品の価格転嫁の効果が表れ原価率が改善。

販管費変動要因

1Qにインド M&A関連費を計上した影響で販管費が大幅に増加。
賃上げにより労務費が増加。

セグメント別業績概要～ファスナー事業





単位：百万円／％	FY2024 2Q	FY2025 2Q	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	16,038	17,727	1,688	10.5
自動車	6,356	7,004	648	10.2
住宅・建築	3,525	3,528	2	0.1
電機・電子部品	2,324	2,376	52	2.2
雑貨	882	1,474	591	67.0
ＩＴ・情報機器	776	842	66	8.5
精密機器	583	768	185	31.8
エネルギー関連	101	237	136	134.3
医療	153	152	0	△ 0.4
その他	1,334	1,341	6	0.5
営業利益	690	913	223	32.3

売上高

自動車業界において2Qより加わったインド子会社が業績に貢献。また、ゲーム機向け精密ねじの大幅増、AI関連需要、国内を中心とする自動車のCASE関連需要により、前年同期比で増収。

営業利益

主材料の線材のほか副資材費・賃金・物流費などの上昇に対する価格転嫁の効果が前年末から徐々に表れた。1QのインドM&A関連費用計上の影響はあるものの、国内の自動車向け・ゲーム機向けの好調により、前年同期比で増益。

業界別コメント

自動車

2Qより加わったインド子会社が業績に貢献。CASE関連の車載部品や電動化で、オリジナル品のゆるみ止めねじ「ギザタイト」、座金組み込みねじ「アスファ」、締結粉飛散防止ねじ「CPグリップ」、「精密プレス製品」の販売が好調。 軽量化・薄板化の締結に貢献する「JOISTUD」、バッテリー向けの異種金属接合「AKROSE」も引き合い活発。

住宅・建築

業界の深刻な人材不足・資材高騰による計画遅延などが続く影響で、前年同期並み。

電機・電子部品

マレーシアで家電向けが増加。

雑貨

ゲーム機向けの精密ねじが大幅に増加。今後も継続見込み。

ＩＴ・情報機器

マレーシアでOA機器向けが増加。

精密機器

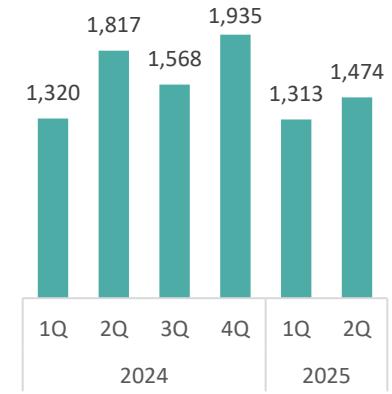
国内でレンズ等の映像・光学向けが増加。

エネルギー関連

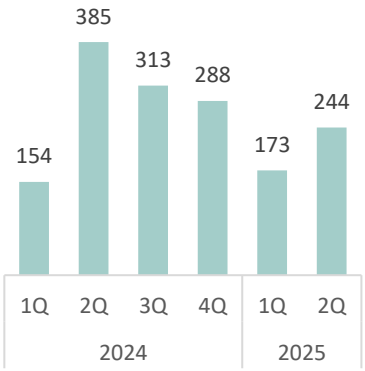
生成AI需要によりデータセンター向けに「CPグリップ」が好調。

セグメント別業績概要～産機事業

百万円　売上高



百万円　営業利益



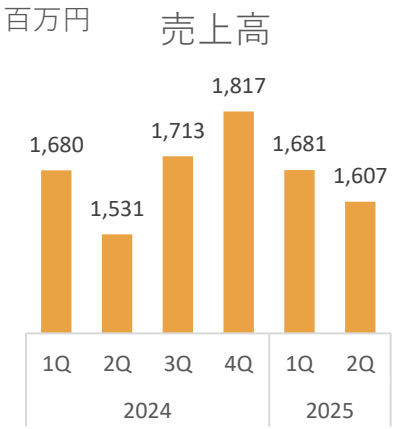
単位：百万円／％	FY2024 2Q	FY2025 2Q	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	3,138	2,788	△ 349	△ 11.2
自動車	1,477	1,584	106	7.2
電機・電子部品	499	419	△ 80	△ 16.0
エネルギー関連	135	241	106	78.3
遊技機	110	103	△ 7	△ 6.3
住宅・建築	83	98	14	16.7
ＩＴ・情報機器	83	17	△ 65	△ 77.5
その他	748	317	△ 429	△ 57.3
営業利益	539	418	△ 120	△ 22.4

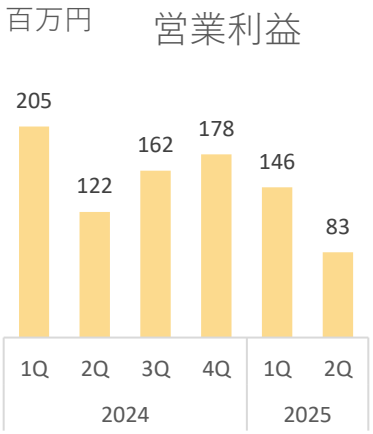
売上高	主力の自動車業界で、CASE関連や新設ライン向けねじ締め機の販売を確保したものの、世界全体のEV販売減速、米国関税の影響で全体的に設備投資が伸び悩んだ。加えて前年の大型設備受注の反動で、前年同期比で減収。
営業利益	ねじ締め機において前年2Qより価格転嫁が進んだものの、売上高の落ち込みの影響で前年同期比で減益。
新製品情報	2月に単軸自動ねじ締め機の超低推力モデル「FM513VZR」を発売。

業界別コメント

自動車	世界的なEV市場の鈍化傾向に加え、米国の関税強化の影響もあり、設備投資は様子見の状況が続いた。一方、CASE関連製品の増産対応や新設ライン向けのねじ締め機の販売を着実に確保し、前年同期と比較してやや回復傾向。 海外ではインド向け販売が拡大。
電機・電子部品	主要ユーザー先における設備投資抑制の影響で前年同期比で減少。
エネルギー関連	電力計の新機種需要により前年同期比で増加。
ＩＴ・情報機器	前年のスマホ関連向け受注の反動で減少。
その他	前年の汎用エンジン用大型設備受注等の反動で減少。

セグメント別業績概要～制御事業





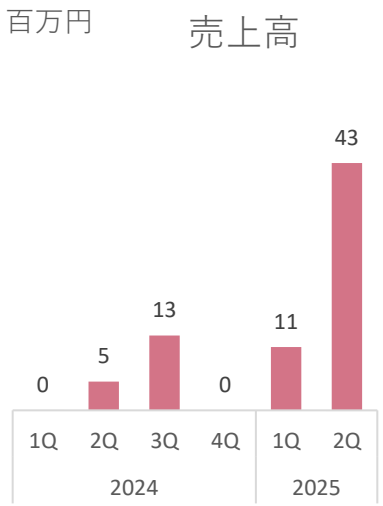
単位：百万円／%	FY2024 2Q	FY2025 2Q	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	3,212	3,288	76	2.4
化学・薬品	637	797	159	25.0
エネルギー関連	682	413	△ 268	△ 39.4
環境	348	336	△ 11	△ 3.4
電機・電子部品	188	273	84	44.9
住宅・建築	162	213	51	31.4
造船	178	189	10	6.2
自動車	228	180	△ 47	△ 21.0
医療	60	93	32	53.5
食品	60	54	△ 5	△ 9.8
その他	663	736	72	11.0
営業利益	328	230	△ 98	△ 29.9

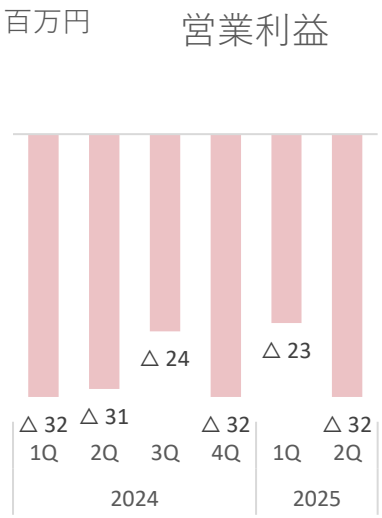
売上高	化学・薬品分野における分析装置、国内での電池向け分析・計測機器、海外向け元素計が好調に推移。一方、エネルギー分野における前年の大型受注の反動を受けた影響で、全体では前年同期でやや増。
営業利益	前年は高付加価値の分析機器の受注残の解消が進んだことにより一時的に利益率が上がったが、出荷も通常の水準に落ち着き前年同期比で減益。
新製品情報	6月に海外向けポータブル型水分計「CA/KF-51」を発売。

業界別コメント

化学・薬品	北米での分析装置の販売が堅調に推移。前年2Qより商流見直しにより販売を開始した中国子会社でも販売好調。
エネルギー関連	インド・中東での石油精製、石油化学向けの元素計需要が拡大したものの、前年に硫黄分析装置の大型受注があった反動で減少。
環境	PFAS規制による有機フッ素の分析需要は続くも、2024年3月発売の自動試料燃焼装置「AOF/AQF-5000H」の初動売上の反動でやや減。
電機・電子部品	国内における電池向け水分計、抵抗率計がけん引して増加。また、生成AI需要の高まりによりデータセンター向け流量計の受注が増加。
住宅・建築	地盤調査機「ジオカルテIV」は、戸建て住宅着工件数が伸びを欠く影響で低調に推移。前年3Qにタイ運輸省地方道路局へ初売上を計上し、拡販継続中。
自動車	世界的なEV需要の減速により、中国向けを中心にLiB向け水分計、抵抗率計が大幅に減少。

セグメント別業績概要～メディカル事業





単位：百万円／%	FY2024 2Q	FY2025 2Q	前期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	5	55	49	847.6
医療	5	55	49	847.6
その他	–	–	–	–
営業利益	△ 63	△ 56	7	–

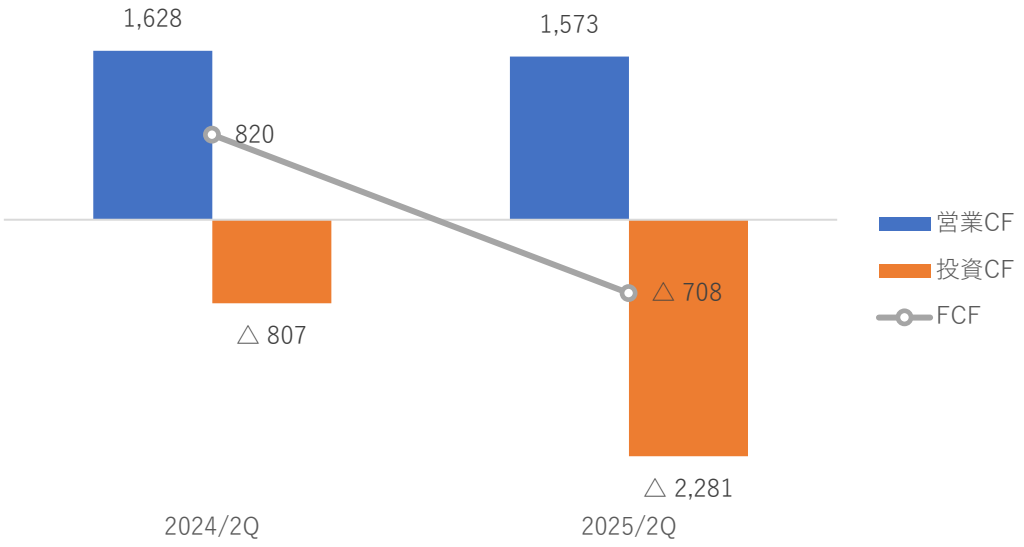
業績	戦略的な市場対応を目的とした製品ポートフォリオの再編に伴い、売上増加。
医療用照明器「FREELED」	コロナ禍を境に顧客要望の高いコスト低減を図りつつ、市場ニーズの収集と提案活動を推進するも、本採用には至らず。今後も販社を通じたPR強化にも注力し、本採用を目指す。
医療用生体内溶解性高純度マグネシウム	2023年の国内特許取得に続き、2024年7月に米国特許取得。他の主要6ヶ国へ申請済みの特許も順次取得予定。引き続き、早期製品化に向けた取り組みを継続中。また、並行して本素材の適用可能性について情報収集を進める。
その他	本年3月には医療機器の品質規格であるISO13485を取得。医療機器開発や製造販売業許可による製造受託案件の獲得に向けた生産体制の構築を進める。

連結貸借対照表

単位：百万円／％	FY2024/4Q		FY2025/2Q		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
流動資産合計	**36,504**	**65.7**	**34,772**	**62.6**	**△ 1,732**	**△ 4.7**
現金及び預金	10,580	19.0	10,278	18.5	△ 302	△ 2.9
売上債権	13,318	24.0	11,623	20.9	△ 1,694	△ 12.7
棚卸資産	10,992	19.8	11,926	21.5	934	8.5
固定資産合計	**19,099**	**34.3**	**20,740**	**37.4**	**1,641**	**8.6**
有形固定資産	14,003	25.2	14,684	26.5	681	4.9
無形固定資産	864	1.6	1,800	3.2	936	108.3
投資その他の資産	4,231	7.6	4,255	7.7	24	0.6
資産合計	**55,604**	**100.0**	**55,513**	**100.0**	**△ 91**	**△ 0.2**
流動負債合計	**13,200**	**23.7**	**12,913**	**23.3**	**△ 286**	**△ 2.2**
仕入債務	8,835	15.9	7,264	13.1	△ 1,570	△ 17.8
短期借入金	1,325	2.4	2,507	4.5	1,182	89.2
固定負債合計	**3,812**	**6.9**	**3,879**	**7.0**	**66**	**1.8**
長期借入金	235	0.4	574	1.0	339	144.2
負債合計	**17,012**	**30.6**	**16,792**	**30.3**	**△ 219**	**△ 1.3**
資本金	3,522	6.3	3,522	6.3	－	－
資本・利益剰余金	30,793	55.4	31,298	56.4	504	1.6
自己株式	△ 1,778	△ 3.1	△ 1,746	△ 3.0	31	－
純資産合計	**38,591**	**69.4**	**38,720**	**69.7**	**128**	**0.3**

連結キャッシュフロー計算書

単位：百万円／％	FY2024/2Q	FY2025/2Q		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF　※①	1,628	1,573	△ 54	△ 3.4
投資活動によるCF　※②	△ 807	△ 2,281	△ 1,474	-
（フリーCF）　※①＋②	820	△ 708	△ 1,529	-
財務活動によるCF	△ 482	379	862	-
現金及び現金同等物の増減額	557	△ 470	△ 1,027	-
現金及び現金同等物の期首残高	8,027	9,604	1,577	19.7
現金及び現金同等物の期末残高	8,584	9,134	550	6.4



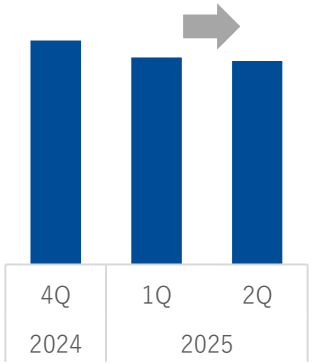
2．2025年12月期(第120期)業績予想

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

連結業績予想

単位：百万円／%	FY2024		FY2025（予想）		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	47,069	100.0	50,100	100.0	3,030	6.4
営業利益	3,326	7.1	3,600	7.2	273	8.2
経常利益	3,573	7.6	3,700	7.4	126	3.5
親会社株主に帰属する当期純利益	2,199	4.7	2,300	4.6	100	4.6
一株当たり当期純利益（円）	60.18		63.36			

注残の推移



予想のポイント

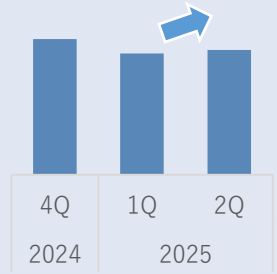
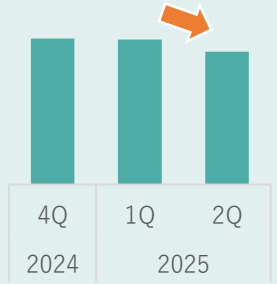
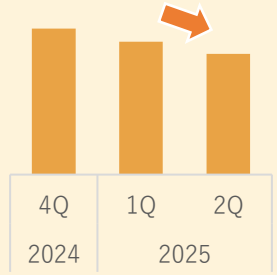
売上高

- 主力の自動車向けファスナー事業は、米国関税の影響をほぼ受けることなく、国内を中心に好調を維持。ゲーム機向けの精密ねじやデータセンター向けCPグリップは後半も業績をけん引する見込み。海外においても展示会への出展効果により新規引き合いも増加傾向にあり、今後の成長が期待される。
- 産機事業については、米国や東南アジア市場は低調だが、インド市場が堅調。下期は国内でエネルギー関係向けの大型設備の売上が見込まれる。
- 制御事業においては、環境意識の高まりから分析機器が好調を維持し、住宅関連ではジオカルテの低調を補完する新たな取り組みを進めている。
- メディカル事業についても特定製品による業績貢献が見込まれる。

営業利益

- 前年度から進めてきた価格転嫁がさらに進み、利益環境は好調を維持すると予想。下期においても取引先の理解を得ながら価格改定を進める。
- 利益率の高い産機事業のねじ締め標準機やファスナーの高付加価値製品の拡販に注力し、利益率向上を目指す。
- 工場間輸送費の削減や材料見直しを通じて変動費を抑制し、収益性をさらに高めていく。
- 第1四半期にM&A費用を計上したインド子会社の下期以降の利益貢献が期待される。

セグメント別市場動向と取り組み状況

事業		主な市場動向	取り組み状況・今後の取り組み	注残の推移
ファスナー	自動車	EV販売減速の影響はあるが、CASE向け車載部品や電動化でバッテリー・インバーター等向け市場の拡大は継続。車両の軽量化、薄板化ニーズ継続。	• 住宅・建築分野でグループ間の相互顧客への同行営業による新たな需要獲得を推進中 • 海外子会社と連携し欧州市場を中心に非日系企業への営業活動強化 • 工場再編による工場間輸送の削減、調達先の見直しなどの製造コスト低減・利益率改善	
	住宅・建築	業界の深刻な人材不足・資材高騰による計画遅延が継続。		
	雑貨	ゲーム機向けの受注が継続する見込み。		
産機	自動車	米国追加関税やEV車向け設備投資延期に伴い各社で様子見の状況。一方で新車種向けや標準装備が進むADAS関連は継続した設備投資が進む予想。	• 非日系ユーザーをターゲットに低コスト型アジアモデル製品拡充 • インド市場拡販の強化 • 新製品の超低推力モデル「FM513VZR」のPR • ねじ締め機に新たなオプションとして「コンタミユニット」と「超高精度ねじ浮き検出機能」を追加	
	電機・電子	主要ユーザー先における設備投資の抑制が続く見通し。		
	エネルギー関連	製品更新に伴い各社で設備投資が進む見通し。		
制御	化学・薬品	LIB向けは中国を含む一部地域で需要が減速も、国内など次世代電池材料向け需要は継続の見込み。	• PFASのスクリーニング分析で製品の安定性・耐久性テストをユーザーと実施するなどシェア拡大に向けた活動を展開 • 有機溶剤リサイクル事業は、10月の「京都スマートシティEXPO」でデモ機出展を予定	
	エネルギー関連	インド・中東での石油精製、石油化学向けに元素計、自動試料燃焼装置の需要が拡大中。		
	環境	国内で2026年4月からPFOS・PFOAの規制が決定し需要増に期待。今年4月に公定法に採用された小型蒸留装置の販売も増加傾向。		
メディカル	開発計画	2024年7月の米国を皮切りに「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」の海外特許を順次取得予定。同材料の早期製品化に向けて準備を進めると同時に、様々な医療機器領域への適用拡大について探求を進める。当社既存技術を活かした新たな医療機器の製造受託案件の獲得に向けた体制も構築中。		